

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成28年11月11日
【四半期会計期間】	第65期第2四半期（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第2四半期連結 累計期間	第65期 第2四半期連結 累計期間	第64期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (千円)	12,110,660	14,801,345	26,612,499
経常利益 (千円)	1,305,938	1,471,257	3,325,696
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	966,207	862,761	2,305,404
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	967,730	843,711	2,265,702
純資産額 (千円)	9,473,843	10,993,015	10,771,702
総資産額 (千円)	14,932,851	17,562,630	17,936,725
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	31.05	27.72	74.08
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.4	62.6	60.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	994,650	1,176,991	3,244,422
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	341,284	324,640	2,343,246
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	879,516	1,032,897	283,989
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	2,413,336	3,069,084	3,253,975

回次	第64期 第2四半期 連結会計期間	第65期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	23.90	21.73

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社は、平成28年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。第64期の期首に株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、国内市場の伸び悩みから、業態を越えた企業間競争は激化傾向にあります。また、消費マインドは、依然として節約志向が根強いものの、「ハレ・コト消費」傾向の顕著化など、消費の二極化がより鮮明になり、インバウンド動向においては、訪日外客数が大幅に伸びている一方で、高額品を中心としたインバウンド需要の減速が見られはじめるなど、消費環境は刻々変化している状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは、前年度に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート宣言（WSR）～世界へ、ありえない驚きの、超感動を提供する～』の更なる推進を図るため、当年度は『WSR 2（ダブルエスアール・ダブルエスアール）』を経営スローガンに掲げ、インバウンド対策の強化、海外展開、首都圏でのWSR展開の推進、プレミアム・ギフトスイーツの創造と育成に注力いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、重点施策遂行の成果及び株式取得により平成28年2月から連結の範囲に含めました株式会社フランスが加わったことなどにより、14,801百万円（前年同期比22.2%増）となりました。利益面では、株式会社フランスの事業の特性による季節的な変動要因によるマイナス影響があった一方、増収効果に加え売上総利益率が前年同期に対し0.8ポイント増加したことなどにより、営業利益は1,452百万円（前年同期比13.4%増）、経常利益は1,471百万円（前年同期比12.7%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期は、税務上の繰越欠損金にかかる繰延税金資産の追加計上により税金費用が一時的に低かったため、当第2四半期連結累計期間の税金負担が前年同期に比べて増加した結果、862百万円（前年同期比10.7%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

前連結会計年度中において行われた組織再編に伴い、従来、独立セグメントとしておりました「寿製菓」、「但馬寿」を統合し、「寿製菓・但馬寿」に変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織再編後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、前年同四半期の算定方法につきましても当四半期の区分に組み替え後の数値に基づいて算定しております。

ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、道内店舗における販促強化、国内主要国際空港での提案営業の強化、台湾・韓国などアジア圏における事業推進などに注力いたしました。商品面では、主力商品「ドゥブル・フロマージュ」、焼き菓子商品の「小樽色内通りフロマージュ」及び「ビスキュイ・オ・フロマージュ」の販売強化に注力いたしました。その結果、売上高は、4,263百万円（前年同期比9.3%増）、営業利益は423百万円（前年同期比20.2%増）となりました。

寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、グループ各社及び代理店向けに新商品及び主力商品対策などの提案営業を強化するとともに、地元山陰では発売50周年を迎える名菓「因幡の白うさぎ」及びモンド・セレクション6年連続最高金賞受賞の「白ウサギフィナンシェ」の販売強化、「遊月亭の黒豆茶」の通信販売などに注力いたしました。その結果、売上高は4,948百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益は634百万円（前年同期比54.9%増）となりました。

販売子会社

販売子会社は、東海地区では「小倉トーストラングドシャ」、福岡地区では「まっかな苺のラングドシャ」の販売強化に努め、関西地区では関西国際空港を中心に「京都ヴェネト」及び「コンディトライ神戸」ブランドでのインバウンド対策を推進いたしました。その結果、売上高は2,504百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益は180百万円（前年同期比3.3%増）となりました。

シュクレイ

シュクレイは、「ザ・メープルマニア」をはじめとする各ブランドの知名度向上を図るため、期間限定出店展開及び季節イベント対策の推進、インバウンド対策を含む卸売の強化などに注力いたしました。新ブランドでは、東京・JR新宿駅南口NEWoman（ニューマン）に「Butter Butler（バターバトラー）」を、東京・南青山に「GENDY（ジェンディー）」を平成28年4月にそれぞれ新規出店いたしました。その結果、売上高は2,430百万円（前年同期比36.5%増）、営業利益は307百万円（前年同期比65.8%増）となりました。

九十九島グループ

九十九島グループは、平成28年4月に発生した熊本地震の影響により、観光客が減少した長崎・佐世保地区の落ち込みを挽回すべく、発売65周年を迎えた「九十九島せんべい」の販売強化に努めるとともに、フレンチトースト専門店「Ivorish（アイボリッシュ）」では、期間限定出店の展開を推進いたしました。その結果、売上高は1,611百万円（前年同期比4.9%減）、営業損失は19百万円（前年同期は営業利益49百万円）となりました。

フランセ

フランセは、製造ラインの統合・新設、ブランド再構築など経営の抜本的な見直しを推進いたしました。商品面では、期間限定の新商品「レモンをたのしむミルフィユ」及び「木苺をたのしむミルフィユ」を投入し、夏季シーズンにおける販売強化に努めました。その結果、売上高は1,490百万円、営業損失は229百万円となりました。

なお、株式会社フランセは、事業の特性による季節的な変動があり、上半期の業績は下半期に比べ著しく低調な傾向にあります。

その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれており、売上高は112百万円（前年同期比10.8%増）、営業損失は38百万円（前年同期は営業損失28百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、17,562百万円となり、前連結会計年度末と比べ374百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少（384百万円）、受取手形及び売掛金の減少（253百万円）、固定資産における機械装置及び運搬具（純額）の増加（147百万円）、商品及び製品の増加（138百万円）などの要因によるものです。

負債は、6,569百万円となり、前連結会計年度末と比べ595百万円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少（196百万円）、短期借入金の減少（200百万円）、長期借入金の減少（171百万円）などの要因によるものです。

純資産は、10,993百万円となり、前連結会計年度末に比べ221百万円増加いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（862百万円）、配当金の支払いによる減少（622百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.5ポイント増加の62.6%となり、1株当たり純資産は353円25銭となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）残高は、前連結会計年度末に比べ184百万円減少し、3,069百万円（前年同期比27.2%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1,176百万円（前年同期比18.3%増）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益1,429百万円、減価償却費397百万円の計上及び、売上債権の減少額251百万円などの増加要因があった一方、法人税等の支払額808百万円、たな卸資産の増加額115百万円などの減少要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、324百万円（前年同期比4.9%減）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出583百万円の減少要因があった一方、定期預金の払戻による収入200百万円、投資有価証券の売却による収入138百万円などの増加要因によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,032百万円（前年同期比17.4%増）となりました。

主な要因は配当金の支払額622百万円、短期及び長期借入金の返済額400百万円などの要因によるものであります。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、22,536千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	91,200,000
計	91,200,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	31,121,520	31,121,520	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	31,121,520	31,121,520	-	-

(注)平成28年2月15日開催の取締役会決議により、平成28年4月1日付で1株を3株に株式分割いたしました。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日	-	31,121,520	-	1,217,800	-	550,269

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
エスカワゴエ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎9-8-24	9,300	29.88
寿スピリッツ従業員持株会	鳥取県米子市旗ヶ崎2028寿製菓(株)内	945	3.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	926	2.97
株式会社山陰合同銀行	島根県松江市魚町10	900	2.89
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	896	2.88
とりぎんリース株式会社	鳥取県鳥取市扇町9-2	762	2.44
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE FIDELITY FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	434	1.39
株式会社商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2-10-17	360	1.15
福山通運株式会社	広島県福山市東深津町4-20-1	360	1.15
高橋 紀代子	鳥取県米子市	333	1.06
計	-	15,218	48.89

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,116,500	311,165	-
単元未満株式	普通株式 3,420	-	-
発行済株式総数	31,121,520	-	-
総株主の議決権	-	311,165	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が18,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数180個が含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	1,600	-	1,600	0.01
計	-	1,600	-	1,600	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,453,975	3,069,084
受取手形及び売掛金	3,222,671	2,969,514
商品及び製品	784,260	923,240
仕掛品	102,378	47,634
原材料及び貯蔵品	399,706	430,481
その他	567,348	617,569
貸倒引当金	13,494	4,950
流動資産合計	8,516,844	8,052,572
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,206,030	3,235,057
機械装置及び運搬具(純額)	1,291,109	1,439,044
工具、器具及び備品(純額)	316,277	354,000
土地	3,084,438	3,084,438
リース資産(純額)	12,552	10,374
建設仮勘定	5,967	29,755
有形固定資産合計	7,916,373	8,152,668
無形固定資産	103,840	94,177
投資その他の資産		
その他	1,426,846	1,289,567
貸倒引当金	27,178	26,354
投資その他の資産合計	1,399,668	1,263,213
固定資産合計	9,419,881	9,510,058
資産合計	17,936,725	17,562,630
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,051,729	1,119,852
短期借入金	720,000	520,000
1年内返済予定の長期借入金	385,202	356,399
未払法人税等	818,360	621,599
賞与引当金	520,876	583,616
ポイント引当金	17,468	19,917
その他	1,305,195	1,175,418
流動負債合計	4,818,830	4,396,801
固定負債		
長期借入金	1,072,912	901,709
退職給付に係る負債	1,024,802	1,073,314
その他	248,479	197,791
固定負債合計	2,346,193	2,172,814
負債合計	7,165,023	6,569,615

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	8,211,217	8,451,580
自己株式	785	785
株主資本合計	10,751,393	10,991,756
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,008	15,966
為替換算調整勘定	4,699	14,707
その他の包括利益累計額合計	20,309	1,259
純資産合計	10,771,702	10,993,015
負債純資産合計	17,936,725	17,562,630

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	12,110,660	14,801,345
売上原価	5,574,250	6,691,719
売上総利益	6,536,410	8,109,626
販売費及び一般管理費	5,255,946	6,656,986
営業利益	1,280,464	1,452,640
営業外収益		
受取利息	266	388
受取配当金	2,311	2,884
受取地代家賃	9,147	9,592
受取補償金	7,581	-
持分法による投資利益	-	5,946
その他	17,784	13,019
営業外収益合計	37,089	31,829
営業外費用		
支払利息	7,108	6,583
その他	4,507	6,629
営業外費用合計	11,615	13,212
経常利益	1,305,938	1,471,257
特別利益		
投資有価証券売却益	1,809	-
固定資産売却益	525	513
特別利益合計	2,334	513
特別損失		
固定資産売却損	2,144	409
固定資産除却損	10,196	12,392
投資有価証券売却損	-	29,342
特別損失合計	12,340	42,143
税金等調整前四半期純利益	1,295,932	1,429,627
法人税等	329,725	566,866
四半期純利益	966,207	862,761
親会社株主に帰属する四半期純利益	966,207	862,761

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	966,207	862,761
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	91	9,042
為替換算調整勘定	1,432	10,474
持分法適用会社に対する持分相当額	-	466
その他の包括利益合計	1,523	19,050
四半期包括利益	967,730	843,711
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	967,730	843,711

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,295,932	1,429,627
減価償却費	315,047	397,496
投資有価証券売却損益(は益)	1,809	29,342
貸倒引当金の増減額(は減少)	7,716	9,368
賞与引当金の増減額(は減少)	34,175	62,740
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	21,063	48,512
受取利息及び受取配当金	2,577	3,272
支払利息	7,108	6,583
持分法による投資損益(は益)	-	5,946
ポイント引当金の増減額(は減少)	-	2,449
固定資産売却損益(は益)	1,619	104
固定資産除却損	10,196	12,392
受取補償金	7,581	-
売上債権の増減額(は増加)	241,424	251,489
たな卸資産の増減額(は増加)	90,968	115,434
仕入債務の増減額(は減少)	165,013	69,956
その他	278,241	186,542
小計	1,235,269	1,989,920
利息及び配当金の受取額	2,548	3,272
利息の支払額	6,760	7,484
補償金の受取額	7,581	-
法人税等の支払額	243,988	808,717
営業活動によるキャッシュ・フロー	994,650	1,176,991
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	-	200,000
投資有価証券の取得による支出	3	1,325
投資有価証券の売却による収入	2,745	138,947
有形固定資産の取得による支出	260,267	583,315
有形固定資産の売却による収入	2,047	1,495
無形固定資産の取得による支出	43,960	10,669
敷金及び保証金の差入による支出	36,444	21,740
敷金及び保証金の回収による収入	20,087	30,047
その他	25,489	78,080
投資活動によるキャッシュ・フロー	341,284	324,640
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	300,000	200,000
長期借入金の返済による支出	153,654	200,006
ファイナンス・リース債務の返済による支出	3,298	2,993
自己株式の取得による支出	129	-
配当金の支払額	414,935	622,398
その他	7,500	7,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	879,516	1,032,897
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,603	4,345
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	229,753	184,891
現金及び現金同等物の期首残高	2,555,418	3,253,975
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	87,671	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,413,336	3,069,084

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更が、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
従業員給料・賞与	1,536,294千円	2,008,636千円
販売促進費	846,296	1,084,673
貸倒引当金繰入額	7,716	9,370
賞与引当金繰入額	234,663	275,005
退職給付費用	21,804	26,789

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	2,613,336千円	3,069,084千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	200,000	-
現金及び現金同等物	2,413,336	3,069,084

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	414,935	40.00	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	622,398	60.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシイ シイ	寿製菓・但 馬寿	販売子会社	シュクレイ	九十九島 グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	3,407,788	2,844,075	2,466,302	1,780,891	1,511,030	12,010,086
セグメント間の内部 売上高又は振替高	491,690	1,746,613	2,235	-	183,462	2,424,000
計	3,899,478	4,590,688	2,468,537	1,780,891	1,694,492	14,434,086
セグメント利益 (は損失)	352,166	409,963	174,656	185,599	49,108	1,171,492

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	100,574	12,110,660	-	12,110,660
セグメント間の内部 売上高又は振替高	989	2,424,989	2,424,989	-
計	101,563	14,535,649	2,424,989	12,110,660
セグメント利益 (は損失)	28,294	1,143,198	137,266	1,280,464

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額137,266千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額443,107千円、セグメント間取引消去額8,152千円、たな卸資産の調整額15,015千円、各報告セグメントに配分していない全社費用298,978千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓・但 馬寿	販売子会社	シュクレイ	九十九島 グループ	フランセ	計
売上高							
外部顧客への売上高	3,809,915	3,010,272	2,496,392	2,430,539	1,451,744	1,490,424	14,689,286
セグメント間の内部 売上高又は振替高	453,707	1,938,002	8,547	-	160,198	-	2,560,454
計	4,263,622	4,948,274	2,504,939	2,430,539	1,611,942	1,490,424	17,249,740
セグメント利益 (は損失)	423,179	634,971	180,462	307,797	19,582	229,997	1,296,830

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	112,059	14,801,345	-	14,801,345
セグメント間の内部 売上高又は振替高	455	2,560,909	2,560,909	-
計	112,514	17,362,254	2,560,909	14,801,345
セグメント利益 (は損失)	38,440	1,258,390	194,250	1,452,640

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額194,250千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額503,814千円、セグメント間取引消去額8,896千円、たな卸資産の調整額16,207千円、各報告セグメントに配分していない全社費用302,253千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

前連結会計年度中において行われた組織再編に伴い、従来、独立セグメントとしておりました「寿製菓」、「但馬寿」を統合し、「寿製菓・但馬寿」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織再編後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)
 著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)
 著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)
 該当事項はありません。

(企業結合等関係)
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)
 1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	31円05銭	27円72銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	966,207	862,761
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	966,207	862,761
普通株式の期中平均株式数(株)	31,120,035	31,119,915

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 当社は平成28年4月1日付で普通株式1株当たり3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)
 該当事項はありません。

2【その他】
 該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月7日

寿スピリッツ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂東 正裕 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。